

令和2年度 秋季特別展

# ナニこれ！？

—平城京出土の用途不明品—



## 例　　言

1. この冊子は、令和2年9月1日～令和2年11月20日まで奈良市埋蔵文化財調査センターで開催する、令和2年度秋季特別展「ナニこれ！？—平城京出土の用途不明品—」の解説パンフレットです。
2. 掲載写真は、展示品のすべてではありません。
3. 掲載した写真は、奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター及び佐藤右文が撮影しました。
4. 本書の執筆・編集・レイアウトは、埋蔵文化財調査センター職員の協力のもとに、原田恵二郎が行いました。

# I. ナニこれ！コレなに？

平城京内の調査で出土した遺物の中には、類例も少なく、その形状・材質をみただけでは、使い方がよくわからぬいものがあります。ここではそのような、ある意味、謎を秘めた興味深い遺物を紹介します。

## れんげもんおしがた 蓮華紋押型土製品



1. 蓮華紋押型土製品と同範の軒丸瓦 6301 型式 J 種

平城京右京二条三坊七坪でみつかった井戸の枠内から出土したスタンプ形の土製品です。紋様部は軒丸瓦の范(紋様型)を用いて製作されています。我が国には他に例が無く、国外でも類品は、韓国忠清南道牙山市靈仁面新雲里での採集品1点の報告があるだけです。紋様は8世紀前半の軒丸瓦 6301 型式 J 種の范を使用していますが、珠文・線鋸齒紋を飾る外区部分は削り取り、内区の複弁8弁蓮華紋のみとなっています。この特徴から梵鐘などの梵音具の鋳型の撞座部分に押捺した雄型との指摘があります。

## 刺突痕がある土製品



2. 刺突痕がある土製品の外面（左）と内面（右）

全形がわかる出土品はありませんが、外面に刺突痕を残す点が特徴的な土製品です。刺突痕は1つづつあけており、手間のかかるものとみられます。刺突痕には棒先やヘラ先を単に垂直方向から突き刺しただけのものと、斜め方向から突き刺した後、上に起こして、ひだをつけたものがあります。ひだをつけた刺突痕は魚類の鱗の表現にみえます。内面は布目压痕を残すものと、横方向のナデを施すものがあります。

大半は丸瓦の筒部のようですが、平瓦風のものもあり、屋根に使用されたものと推定されます。大半は条坊道路の側溝やその周辺で出土していることから、築地壠の屋根の一部分に使用された飾り瓦の可能性が考えられます。

## 火炎形瓦製品



3. 火炎形瓦製品

一方の面に波状の凹凸を表現し、もう一方の面は平坦です。その形状から火炎を表現した飾り瓦とみられます。西大寺の東辺で出土しました。

西大寺の財産目録である『西大寺資財流記帳』の記述から、金堂の屋根には鶴尾・鳳凰・火炎・宝珠・獅子・雲等様々な飾りが設けられていたことがわかります。これらは金銅製品ですが、金堂より格の低い建物では同様の瓦製品を飾ったことも想像でき、創建当時の華美な西大寺の伽藍を偲ぶものと考えます。

## 山形施釉陶器



4. 山形施釉陶器

表面は緑色・黄色・褐色の三彩が施されています。東大寺西塔の西方、境内地の西辺で確認された土坑から出土しました。

上半部は三角に盛り上げ、下半部は左右に割り込んでおり、キノコ形の山を表現した部分とみられます。側面上半部には横並びに4か所の穴があり、その左下にはガラス光沢をもつ輝石が嵌め込まれていること、上半部の穴底には釉薬がみられないことから、当初はすべての穴に輝石が嵌め込まれていたと考えられます。京都府木津川市の馬場南遺跡で類品が出土しています。馬場南遺跡出土品は灌仏会における釈迦誕生場面を莊厳する調度具の可能性が指摘されており、本例も同様のものであったと考えられます。

## 線刻石



5. 線刻石

平城京右京一条二坊十三坪と二条二坊十六坪の間に位置する、一条南大路路面でみつかった東西方向の溝状遺構から出土しました。縦 6.0 cm以上、横 8.7 cm以上、厚さ 5.0 cmの直方体の角部にあたる破片とみられます。

表面は縦に 2.4 cm間隔で3本、横方向に 1.5~1.7 cm間隔で3本の細い線刻があります。側面には表面から続く縱線と、横方向に 1.3 cm間隔の2本の細い線刻によって方眼を描いています。

材質は印章の素材とされる葉鱗石ですので、印章加工途中の未製品かもしれません。

## 山形土製品



6. 山形土製品  
(下段左：上から、下段右：下から)

高さ 9.9 cm、底部の長径 11.4 cm、短径 8.2 cm の断面山形の須恵器質の土製品です。

粘土塊を山形に成形し、断面に字形の工具で洞や岩肌を表現しています。底部は工具で凹面状に削り込んでいます。底部を一部欠失するだけのほぼ完形品です。

平城京左京一条三坊九坪内でみつかったウナベ古墳の南外濠とみられる遺構から、埴輪や8世紀前半から中頃にかけての土器・軒瓦と一緒に出土しました。

山形施釉陶器と同様の仏具の可能性もありますが、「盆山」（「盆景」・「仮山」とも）に使う山のミニチュアの可能性もあります。「盆山」とは盆の上に石や土砂、苔・草木などを配し、自然の風景を模した芸術です。

「盆山」は我が国では、鎌倉時代の13世紀半ばに成立したとされる『西行物語絵巻』にみえるものが最古とされています。ただし、中国では706年に陪葬された章懷太子李賢の墓の壁画に描かれており、唐代には成立していたとみられています。

本品が「盆山」の用具であれば、我が国での初見を大きく遡る資料となります。

## 鐵製二叉鉤



7. 鐵製二叉鉤

朱雀大路西側溝から出土しました。残存長 12.5 cm、最大幅 3.5 cmです。鉤先をV字形の二叉につくり、もとの方は袋状にして、柄を装着するようになっています。目釘で柄に固定したものとみられ、目釘が1つ残っています。先端部は両先とも断面方形を呈し、刃をつけた痕跡はみられません。日本一大きい二叉鉤をもつてます。鍛造品とみられます。

平安時代以降のものとみられる、栃木県日光市の男体山頂遺跡出土品はよく似ていますが、身部がU字形で、先端に刃部を作り出している点が異なります。こちらも本品同様、用途は特定されていません。

## さん 鏺形鉄製品



8. 鏺形鉄製品

鏺は中国漢代には除草や工作用の、唐代には醫状工具を意味し、現在では主に、へら状の刃に柄を付けたスクレイパーのような道具を意味します。本品は平城京左京五条四坊十六坪の井戸の枠内から出土しました。

鏺は古墳時代からいくつかの出土例があり、本例もこれらと平行である点は同じですが、身部がやや「く」の字形に曲がる点が異なります。この形状は、主として炭火を運んだり、火をかきおこすため、江戸時代に考案された十能に似ています。

袋部にある3つの目釘孔は、中央の孔とその左右の孔で穿孔方向が異なります。中央の孔のみ外に向けて開けられていますので、当初は中央の目釘のみで固定していたものが、後に補強のためにその左右にも釘が打たれたとみられます。その際に鏺のような道具から、十能のような道具へ作り変えられた可能性もあります。

## 獸脚付円盤状土製品



9. 獣脚付円盤状土製品

獣脚の付いた円盤状の粘土板に、粘土紐を迷路のように巡らせ貼り付けた土製品です。破片ですが、高さ約 10.3 cm、径約 31.6 cm に復元できます。大安寺境内地に取り込まれた5世紀の前方後円墳である杉山古墳の周濠から9世紀前半の土器とともに出土しました。他に類例はみつかっていません。

用途としては、盤上の溝に香の粉末を敷き詰め、その一端に火をつけて時間の経過を測る香時計の可能性が考えられます。

## 須恵質円筒



10. 須恵質円筒



11. 須恵質円筒出土状態

平城京左京三条五坊三坪でみつかった井戸の枠として使用されていました。直径 95.0 cm前後、高さ 112.0 cmで、  
外側の上下端部に補強のための突帯を貼り付けています。厚さは胴部約 2.0 cmで、上下の突帯部は約 6.0 cmあります。  
粘土紐を積み上げながら、当て具を内側に当てて、表面を叩き板で叩き締めたのち、表面を削って仕上げていること、  
叩き目や同心円紋の当て具の痕跡から須恵器工人による製作品とみることができます。

木製割り抜きの井戸枠をまねて製作したと思われますが、平城京内で他に出土例が無いことと、製作・運搬・設置に  
相当の手間がかかったことが想定されることから、何らかの転用品の可能性も考えられます。

## 瓦製円筒



12. 瓦製円筒



13. 瓦製円筒出土状態

平城京右京二条三坊二坪でみつかった井戸の枠として使用されていました。径約 83.0 cm、高さ約 42.0 cm、厚さ  
約 3.0 cmで、上端部には半円形の切り欠きがあります。外側には縦方向の繩叩き目、内側には布目が残ること等から、  
布をかぶせた円筒状器具に粘土板を巻き付け、外側を叩き締めて製作しており、瓦工人による製作とみられます。  
わが国には他に類例は確認されていません。中国の秦代の例になりますが、本例と同様の瓦製円筒を縦方向に積み重ね、  
集水槽としていたとの報告があります。本例も単体で使用されたものとは考え難く、同様のものを縦に積み重ね、  
その際半円形の切欠きは上下に合わせ、そこに土管等を差し込み、集水設備として利用していたものと考えられます。

## 台付円板状土製品



14. 左京九条三坊五坪出土台付円板状土製品（左：上から、中：側面から、右：下から）

平城京左京九条三坊五坪の井戸の掘方から1点、九条間南小路南側溝から1点同形のものが出土しました。円形の板に台が付いた土師器です。五坪の井戸の出土品は復元径 11.2cm、残存高 3.0 cm です。脚部には円形の透かしがありますが、均等間隔ではなく、大きさも均一でないため、粗製的印象があります。円面硯のようですが、硯面（陸部）と墨溜（海部）の区別が無く、磨られた痕跡もありません。硯の模倣品とも考えられます。

## 台座形土製品



15. 大安寺出土台座形土製品（左：側面）と左片の上面の紋様（右）

2例のうちひとつは大安寺南大門南側の土坑から出土しました。平面が一辺 7.0 cm の九角形、高さが 5.8 cm に復元できます。上面は平坦で、線刻で3つ以上の区画に分けており、外側には唐草紋を、その内側には九角の頂点に宝相華紋を、その周りに唐草紋様が確認できます。側面には格狭間を削り出してています。側面上部、九角形頂点部分に宝相華紋を引き、格狭間の凸部には、その外形に沿うような線刻があります。

いまひとつは右京一条二坊十四坪の北端で検出した溝状遺構から出土しました。残存高約 7.5 cm、残存幅約 5.0 cm で、壇正積み基壇を模したものとみられます。残存状況から、上部に何らかの造形物が貼り付けられていた可能性が考えられます。調査地は西隆寺の南隣接地であり、西隆寺の軒瓦とともに出土していることから、同寺の品であった可能性が考えられます。

2例とも寺院で使用された仏具と考えられます。



16. 右京一条二坊十四坪出土台座形土製品

## ことじ 琴柱形木製品



17. 琴柱形木製品

平城京右京二条三坊四坪の井戸枠内から出土しました。高さ 3.5 cmで、樹皮が残っており一見、普通の小枝に見えますが、二股に分岐する部分を前後両面から削り出し、その中央をわずかに窪ませています。

類例は二股状の枝を切って逆さにして用いた、和琴の琴柱にみられます。  
琴柱は胴の上に立てて弦を支え、その位置によって音の高低を調節するもので、ただし、本例は現在みられる和琴の琴柱よりも少し小さいという疑問もあります。

なお、この木製品出土地に近い右京二条三坊十坪では、六弦の和琴が井戸枠の転用材として出土しています。

## 花紋円板形土製品



18. 花紋円板形土製品

平城京左京九条三坊五坪で確認された井戸の掘方から出土しました。半分を欠失していますが、復元径約 8.4 cm、厚さ約 1.8 cmで一方の面に、抽象化された花紋があります。花紋は凹線で表現され、凹線部分に砂粒に動きは見えず、施紋は型押しによるものとみられます。型押し施紋であれば、軒丸瓦の瓦当部破片の可能性が考えられます。やや小型で外縁が無い軒丸瓦は佐渡国分寺等でも確認されています。しかし、本例は厚さが薄すぎることから、軒丸瓦とみることに疑問があります。

## ココヤシの実



19. ココヤシの実

熱帯地方原産のヤシの実内部の内果皮です。平城京左京八条二坊五坪の井戸枠内から、9世紀前半の土器とともに出土しました。長径 12.3 cm、短径 9.8 cmの細長い形を呈しており、現在各地に普及している球形の栽培種ではなく、殆ど自生していない先祖型品種です。上面の中心に孔があり、容器として使用したと考えられます。正倉院南倉の宝物に類例があり、内果皮の上面を人面に見立てた加工・装飾が施してあります。

漂着物あるいは南方との交易によって都にもたらされたと考えられます。

## すりばち 擂鉢状土製品



20. 擂鉢状土製品（左：上から、中：側面から、右：下から）

平城京左京六条三坊十一坪の遺物包含層で出土しました。一方は径約 14.0 cmで平坦面があり、残存する長さは約 10.0 cmです。平坦面の反対側には残存径 8.0 cm、残存する深さ 6.5 cm の穴があり、断面形は細長い擂鉢状（ひきばつじょう）となっています。穴が開いている方を上方とみれば、擂鉢あるいは扉の輪受の可能性もありますが、穴の底部に摩耗した痕跡がない点が疑問です。また、平坦面を無紋の瓦当面とみれば、軒丸瓦にもみえますが、類例が無く、屋根のどの部分に葺いたものかわかりません。

## 半球状土製品



21. 半球状土製品

大安寺南門と、金堂から講堂に広がる焼土層から出土したもので、いずれも径約 3.5 cm、高さ約 1.5 cmで、断面形態は半球形です。底面は平坦です。表面には漆を接着剤とし、金箔を貼ったものが確認できます。これとよく似たものが、京都府八幡市美濃山廃寺で出土しており、覆鉢形土製品と呼称されています。覆鉢形土製品は塔ないし塔の一部を表しており、小さな塔をたくさん製作することで功德が得られる小塔供養にもちいられたと考えられています。しかし、覆鉢形土製品は半球状土製品より大きく、底部の周囲に 0.4 cm程度の突帯がめぐり、底部中央に穴があること等、異なる点もあります。本例も小塔供養に用いられたものか、あるいは何かに嵌め込んで使用していた莊嚴具の部品であったものか、今後さらに検討が必要です。

## II. ナニこれ！どのように使ったの？

平城京の主な出土品には、瓦・須恵器・土師器があります。瓦は屋根へ葺くものであり、土師器には椀・皿等の供膳具<sup>さつぐ</sup>・蓋<sup>ふた</sup>・壺<sup>つぼ</sup>等の煮炊き用の煮炊具、壺などの貯藏具があり、須恵器は供膳具・貯藏具と、材質を勘案し、それぞれ用途に合わせて、適当な大きさのものを使い分けていることがわかっています。しかし中には、サイズが著しく異なるものや、材質が違うもの、また必要なはずの部分が元々無いものや、逆になにかが付属するものもあります。ここではそのような、何であるかはわかるものの、どのように使ったか、よくわからないものを紹介します。

### ミニチュア土器



22. ミニチュア土器

日常の土器に比べ、小型の土器です。須恵器のミニチュア土器は精巧で、様々な形状の壺、平瓶、横瓶、杯、高杯があります。実用の土器の組成とは異なり、皿、椀、壺などの日常雑器がなく、液体を入れることのできる壺や瓶が多く出土するという特徴があります。このことから、神への饗應具とする説がある他、玩具の可能性も指摘されます。

### ミニチュア丸瓦



23. ミニチュア瓦

平城京左京五条四坊十五坪でみつかった掘立柱建物の柱抜き取り穴から出土しました。幅 4.6 cmで、筒部は欠損しており残存長は 4.5 cmです。凹面には細かい布目圧痕も残り、小さいですが、瓦の製作技術で丁寧に製作されたものとわかります。

その小ささから実際の屋根に葺いたとは考え難く、扇子や元興寺・海龍王寺に伝わる小塔などの小建築の屋根瓦と考えられます。なお、同様のミニチュア瓦は難波宮や、兵庫県宍粟市山崎町の播磨干本屋廃寺の出土品等にみられますが、類例は多くありません。

## 小型瓦・超小型瓦



24. 小型瓦・超小型瓦

菅原東一丁目で発見した室町時代の瓦積み井戸の構築部材に転用されていた小型・超小型瓦です。同窓関係から、西へ 1.3 km 離れた菅原遺跡から運ばれたものと考えられます。

菅原遺跡は平城京西四坊（西京極）大路の西方の丘陵東斜面にあり、東向きの基壇建物 1 棟がみつかり、行基創立の四十九院のひとつ長岡院に推定されています。

小型・超小型軒平瓦の凸面には、建物外面の色彩が瓦に付着したものとみられる赤色顔料が残り、実際に通常サイズ・小型・超小型と、大きさの異なる瓦を葺いた特異な屋根であったと指摘されています。

## 超大型軒平瓦



25. 大安寺出土軒平瓦 6716 型式C種と超大型軒平瓦 6716 型式G種

平面プラン・各柱間が平城宮朱雀門と同規模の、大安寺南大門の調査で出土し、6716 型式G種と型式設定された軒平瓦です。瓦当面の高さは約 13.0 cm で、通常の軒平瓦の 2 倍近くあります。この紋様構成と同じ軒平瓦 6716 型式C種が、大安寺で出土しています。これを参考に全体復元してみると、幅が 6716 型式C種の約 3 倍に達する約 60 cm もの大きさであったと考えられ、我が国最大の軒平瓦になります。

切妻造りや入母屋造りの破風の部分には、強化のために、厚みがあり重い専用の蟻羽瓦を葺くことがありますので、本品も南大門屋根の破風部分に用いた蟻羽瓦と考えられます。

## 突起がある須恵器皿



26. 突起がある須恵器皿

高さ約 3.0 cm、復元径 14.0 cm の須恵器皿で、内面に高さ 1.3 cm、底基幅 2.8 cm の舌状の突起があるのが特徴的です。平城京右京二条三坊三坪でみつかった掘立柱建物の柱穴から出土しました。

突起がこの上に載るものを持てる台のような役割であったと考えると、灯明皿を載せた受皿としての用途が考えられます。

## 無紋鬼瓦



27. 無紋鬼瓦

大安寺の經典を保管する施設である経樓で出土した紋様面が無紋の鬼瓦です。裏面にある固定装置の製作法が、大安寺で出土する鬼面紋鬼瓦と同じである為、鬼瓦と判断できます。

鬼瓦を飾る場所は大棟や降り棟の先端であり屋根の中でも目立つ場所です。したがって無紋のまま、使用されたとは考えにくく、本品には木彫りの鬼面が取り付けられていたとみられます。

## とって ポケット状の把手がある須恵器壺



28. ポケット状の把手がある須恵器壺

内面の當て具痕や表面の叩き目から、須恵器の壺の破片で、肩部に付く把手部分とみることができます。平城京右京二条三坊十一坪内の溝から出土しました。興味深いことには、把手部分に復元径約2.4 cm、深さ約9.0 cmの穴があいていることです。把手部が貫通していれば、縄を通して、運搬の際の装置と理解できるのですが、貫通せず、ポケット状になっています。

壺と一緒に使用することが想定できる、柄杓のホルダーなのかかもしれません。

## 孔がある須恵器壺



29. 孔がある須恵器壺

体部の中程に径1.0 cmの孔がある壺です。平城京左京六条一坊十二坪から出土しました。残存する高さ約5.2 cmで、孔は外側から穿孔されています。ミニチュア品に同様のものが2点出土しており、頸の長い壺の胴部から底部の破片とみられます。

同様の穿孔された壺は、左京八条三坊十一坪出土品にもみられますが、平城京内の出土例はあまり聞きません。

このまま水などの液体を入れると半分に満たない時点で、孔からこぼれますので、木あるいは竹で作った長めの注ぎ口を差し込んで使用されたものと考えられます。

## 孔がある須恵器蓋



30. 孔がある須恵器蓋



31. 孔の縁部写真

平城京左京六条二坊十坪の宅地内の溝から出土した須恵器の蓋で、復元径は約 27.0 cm です。中心から対称位置の 2箇所に、長径 1.0 cm、短径 0.4 cm の橋円形の孔があります

孔は蓋の上面から、中心に向かって、斜め方向に穿孔されています。この為、蓋の上面での両孔間の距離は約 6.0 cm ですが、蓋下面での両孔間距離は約 3.6 cm と狭くなります。孔に紐を通して把手としたとも考えられますが、なぜ垂直に穿孔しなかったか疑問が残ります。また孔は蒸気穴とも考えられますが、須恵器は基本的に煮炊具に用いないので、こちらも疑問が残ります。

## せん 花紋壇



32. 花紋壇

壇はレンガのことです。隅部分の小片ですが、一辺約34.0 cmに復原できます。紋様は中央に宝相華紋を飾り、その外側に飛雲紋を、さらにその外側には唐草紋を巡らします。四隅付近には横から見た蓮華紋を配し、この外側には四隅から展開する唐草紋を飾ります。施紋の位置から、床に敷く敷壇とみられます。

こうした花紋敷壇は統一新羅で散見され、大陸趣味豊かな遺物とみることができます。わが国には太宰府例を除いて他に例は確認されていません。本品が出土した左京五条一坊十六坪の調査では、軒丸瓦 89 点、軒平瓦 133 点、壇 77 点と、京内の宅地にしては多量の瓦壇類が出土していますので、宅地内に持仏堂的な瓦葺き建物が存在し、その堂内に仏像を安置する須彌壇の上面に敷いていた可能性も想像されます。

## ふんどう 「分銅」形土製品



33. 「分銅」形土製品

さくわいびり  
秤 秤の錘に似た釣鐘形の土製品です。平城京右京二条三坊十五坪で検出した、奈良時代の遺構の上に重なる土坑から出土しており、平安時代のものである可能性もあります。高さ 3.9 cm、最大径 3.0 cmで、表面は丁寧に磨かれ、焼き上がりは銀灰色で光沢があります。

重さは 36.4 g で、当時の 1両（約 42.0 g）に近いですが、土製品は焼成すると収縮するため、ものの重さを量る「分銅」として、正確に作るのは無理であったと思われます。また金属と違って損傷しやすいので、実際に使用するには適していないと考えられます。したがって、何かに付けた錘か飾りのような目的で作られたものかもしれません。

## 仕切りがある須恵器壺



高台をもつ底部と卵形の体部、直立する口縁部からなり、肩部には一对の把手が付いた須恵器壺で、平城京右京一条二坊十四坪で検出した井戸の枠内から出土しました。

特筆すべきはその内部にあり、壺内を 2 等分する仕切り板がありました。仕切り板はその一部しか残っていませんでしたが、その貼り付け痕跡から、口縁部付近まであったことがわかります。仕切り板の厚さは約 0.5 cm です。

平城京外ではありますが、富山県射水市小杉丸山遺跡の窯跡では同様の仕切りがある横瓶が出土しています。

いったい何を入れていたのか興味深いものです。



34. 仕切りがある須恵器壺

## 金糸



35. 金糸

大安寺の金堂から講堂に広がる焼土層から2点出土しました。1点は残存長2.0cm、もう1点は残存長4.2cmです。2点合わせて重さ0.1gあります。いずれも薄く延ばした金をらせん状に巻いて作られています。科学分析の結果、非常に純度の高い金であることが判明しています。

大安寺には刺繡で作られた繡仏があったことが、『大安寺加藍縁起并流記資財帳』に記載されており、その大きさは長さ約7.0mで、本尊に準じる仏像として礼拝されたと考えられています。

金糸はこの繡仏に使用されていた可能性も考えられます。

## 土師器製作手法による須恵器



36. 須恵質の竈



37. 須恵質の椀



38. 左京四条三坊十五坪の須恵質の椀出土状況



土師器は低火度の酸化焰で焼成された素焼きの土器で、轆轤を用いて製作されます。一方須恵器は轆轤を用いて製作され、窯を用いて高火度の還元焰で焼成された灰色の土器です。土師器には楕・皿等の供膳具、竈・瓶等の煮炊用の煮炊具、壺などの貯蔵具があり、須恵器には供膳具、貯蔵具があります。須恵器は基本的に煮炊具に向かないのですが、大安寺では須恵質の竈が出土しています。

また左京四条三坊十五坪では、土坑から須恵質の椀が10点まとめて出土しました。これらの椀は全て、轆轤を使わない土師器の椀の手法で製作されています。

この2例は珍しい例で、こうした土器が製作された背景が気になります。

### III. ナニこれ！どんな願いが？

平城京からは様々な祭祀・宗教関係遺物が出土します。しかし、考古学は主にものを研究対象としますので、ものとして残らない過去の人間の心の研究は、苦手とするものの一つです。それでも文献史料や民俗学などの成果を比較検討して、さまざまな説が出される魅力ある祭祀・宗教関係遺物をここで紹介します。

#### ひとがた 人形



39. 人形



40. 銅製人形



41. 右京二条三坊六坪出土の人形とその封入壺



42. 大型人形

人間の形<sup>かたち</sup>として作られたものです。板を切り抜いたものが多いですが、金属製も出土しています。

人形の出土状況や史料から、祓<sup>はらき</sup>・治療<sup>じりょう</sup>・地鎮<sup>じちん</sup>など様々なまじないに用いられたとみられています。祓では、人形に一撃<sup>いつうげ</sup>して穢<sup>けがれ</sup>を移し水に流したものと考えられます。

右京二条三坊六坪の井戸から出土した頸のない須惠器の小壺の中には、折りたたんだ状態で人形が2点入っていました。1点はひげを生やした男性のような顔が、もう1点は顔の位置に縦に◎が2個墨書きされています。後者の人形には右脇腹等に木釘が打ち込まれており、悪霊に病がうつるよう念じたまじないと見方もあります。

## いぐし 斎串



43. 斎串

短冊状の薄板の上下両端を尖らせて、側面を削ったり、切り込みを施した串状の木製品です。この木製品は『万葉集』の「斎串立て神酒坐ゑ賜る神主部の奢華の玉鏡見ればともしも」(巻13-3229)の歌にみえる斎串に比定されています。この歌や民俗事例から、神聖な場を表示し、結界を象徴する祭祀具とみられています。

祓に使用されたとみられる溝や河川からの出土品の他にも、井戸枠内から出土する場合も多く、井戸枠の周囲に立てたり、枠内に投入して清浄な水を得ることを願ったと指摘されています。

## 人面墨書き土器



44. 人面墨書き土器

土師器の側面に、人または鬼とみられる顔を墨で描いた土器です。大半は粘土紐による成形痕をのこす粗製品で、口が大きく開く専用の小型壺に墨描きされたものが多いですが、実用の甌を用いたものもあります。

溝・河川で出土するものが大半ですが、井戸から出土する例もあります。

疫病神除けの呪具とする説、または息を吹き込んで穢を封じ込め、水に流す呪具との説もあります。一方、これらに供物を入れて延命を祈願したとする説など諸説あります。

## ミニチュア煮炊具



45. ミニチュア煮炊具

竈・甑・甕といった煮炊具を模した小型の土師器です。大半は粘土紐による成形痕をのこす粗製品です。他の祭祀関係遺物とともに河川や溝から出土することが多く、これも祭祀具とみられます。

ミニチュア煮炊具は、年に一度天に昇り、天上の最高神である天帝に、人の罪を告げる厄神の活動を阻害するため、故意に破壊する呪具との説があります。

## 土馬



46. 土馬



47. 左京四条五坊十二坪出土の土馬（左：正面、右：側面）

馬形の土製品です。8世紀初頭に平城京では頭部の側面形が三日月形になる大和型土馬が成立します。大和型土馬の出土は古代都城とその周辺に限られますが、北陸・山陰などでは地方独特の土馬があります。平城京左京四条五坊十二坪出土の土馬は、形状や顔の表現などから大和型土馬ではなく、地方からの搬入品の可能性が考えられます。

土馬は溝や河川からの出土例が多く、雨乞いのため、生きた馬の代用として水神に供えたとする見方があります。また、疫病神を他界に送り出すための乗り物として、供えたとする見方もあります。

# 木偶



48. 木偶

平城京右京二条三坊二坪でみつかった井戸の枠内から、8世紀末から9世紀初めの遺物とともに出土しました。

高さ 19.9 cm、最大幅 3.1 cm、最大厚 1.9 cm のヒノキ製です。目・口・耳は彫刻後に墨で描いています。

まじないに用いられる人形にみえますが、下半部は付け根が胴より張り出していますので、足の表現ではなく、何らかの台に固定するための差し込み部と考えると、人形とは考え難くなります。

むしろ、軽く前に曲げて垂らした右腕、胸部の衣のヒダの表現や、仏にみられる頭部の髪の生え際の表現（鬟際）から、仏像の可能性が高いと考えられます。



49. 顔の縁部

# 刀形・馬形



50. 刀形（上の3点）・鞍をのせた馬形（最下段）

# ようぶつ 陽物形木製品



51. 陽物形木製品

それぞれ、刀と馬の形代として作られたものです。板を切り抜いたものが大半ですが、やや立体的な表現の刀形もあります。馬形には裸馬を表現したものと鞍を表現したものがあります。

刀形も馬形も神への供えものとみられますが、どのような願いが込められていたのでしょうか。なお、馬形の平城京での出土例は多くありません。

男性器をかたどった木製品です。2点とも井戸枠内から出土しました。芯持の丸木材を使用しており、一端は亀頭部を削り出しています。もう一端は欠損していますが、削り込みがみとめられ、ここに紐をかけるための溝が削り込まれていたとみられます。

平城京の陽物形木製品は井戸や溝から出土するケースが多く、井戸の水が滲れることのないように、井戸に吊るした呪具との見方があります。

同様の木製品は韓国忠清南道扶余郡の陵山里廃寺出土品にもみられることから、朝鮮半島との関係を想定する意見もあります。

## IV. ナニこれ！どんな意味が？

奈良時代は律令に基づく文書行政事務が貫徹していたといわれ、木簡を代表する、さまざまな文字資料が出土しています。ここでは、単なる落書きまたは習書等とは思えないのですが、はっきりとした意味が分からぬ墨書・墨画・刻印等を紹介します。また何を表現したかわからない造形もあわせて紹介します。

### 意味不明の墨書



52. 右京二条三坊六坪出土墨書土器



53. 右京二条三坊四坪出土檜扇



54. 左京二条四坊十坪出土墨書土器と墨書縄部

平城京右京二条三坊六坪の8世紀の井戸枠内から出土した杯の底部外面中央には「惡合愛愍思」とあり、なんらかの呪文のようです。なお、この左下には「殿」が、その上にも文字がありますが、判読できません。

墨書のある檜扇は9世紀初めに埋没した右京二条三坊四坪の井戸枠内から出土しました。ヒノキ製で、13枚の板からなり、親骨には「德道為華興夷」と漢字が、それ以外の7か所には万葉仮名が書かれています。漢文の意味は不明です。万葉仮名は「ひのりかたの」や、「ひのな」等と読める箇所があり、歌を記したものですが、意味は不明です。

左京二条四坊十坪では8世紀後半の井戸枠の中から、「の」の逆字にみえる文字らしきものを墨書した土器が5点も出土しています。所有者または特定組織をあらわすマークとみられます。

## 意味不明の墨画



55. 幾何学模様墨画須恵器蓋



56. 花弁模様墨画須恵器蓋

2点ともに大安寺杉山古墳の周濠から出土しました。

幾何学模様を描いた須恵器蓋のつまみ部分には花と、その周りに花びらを描いています。上面は4つの区画に分け、1番内側は無地で、その外側の第2・3の区画は墨の濃淡で区別しています。1番外側の第4区画と側面には、まよじやん鎔齒紋を描いています。

もう1点は須恵器蓋上面に花びらを描き、その中に「櫻」・「取」の字を配し、蓋の口縁部側にも「此墨」・「人口」と書いています。2点とも何か意味があるようにも思えますが、意味は不明です。

## 大安寺の刻印瓦



57. 大安寺の刻印瓦

大安寺で確認された刻印瓦です。厚さ 0.1 cmほどの金属板を「3」の数字形に曲げた用具を使って、焼成前に押捺されています。軒丸瓦は瓦当裏面か丸瓦部内面に1回押捺、軒平瓦は瓦當面の中央付近に2回押捺されています。押捺された軒瓦の年代観から、天平勝宝8年（756）頃の生産品に押捺されていることが明らかにされています。

刻印の意味については、木簡などにみられる「了」の字と似ていること、「了」が「完了」・「し終える」・「やり遂げる」等、何かを終えた印として一字で表す場合がみられることから、瓦工人の労務管理者による検印の可能性が考えられます。ただし、なぜ軒平瓦の「顔」ともいいくべき、瓦當面の中央付近に検印するのか疑問は残ります。

## 圈足円面硯脚部の造形



58. 圈足円面硯脚部

上から見た形が円形の硯の脚部に付いた顔の飾りです。平城京東四坊大路と五条条間北小路との交差点付近にあたる、五条条間北小路北側溝から出土しました。残存高 6.5 cm、残存幅 8.2 cmです。脚部の顔は、口はヘラ描きされ、目と鬚あるいは歯とみられるものは竹管状の道具で押捺され、表現されています。髪は小粒の粘土球を押し付けた後、そこに竹管状の道具を押捺しており、カールした巻毛を表現したものとみられます。巻毛から獅子にもみえますが、鼻部がやや大き过高いことから、ソグド人など西方系の胡人を表現したとも考えられます。

## 異物が混じる瓦



59. 異物の混じる瓦とその細部

管玉

平城京右京一条二坊十三坪では井戸の枠内から、8世紀後半から9世紀初めの土器とともに、胎土に管玉が混じった丸瓦が出土しています。管玉は蛍光X線分析の結果、粘土を素材とした土製品とわかりました。

この他にも、平城京右京二条三坊十一坪ではウメの種子が混じった8世紀の平瓦、元興寺では土師器皿が混じった11世紀の軒平瓦、西大寺では瓦器片が混じった13世紀の軒平瓦が出土しています。これらは、意図的なものではなく、偶然粘土に含まれていたものが、そのまま焼成されたものなのでしょうか。

# 令和2年度特別展 展示品目録

I. ナニこれ！コレなに？

写真番号	展示品名	出土遺跡名	調査次数	出土地	出土遺構
1	蓮華紋押型土製品 軒丸瓦（6301型J種）	右京二条三坊七坪 右京二条三坊七坪	HJ378-5 HJ364	青野町 青野町	井戸枠内 溝
2	刺突痕がある土製品	左京五条二坊十四坪 左京六条二坊条間北小路 西一坊大路 左京二条四坊七坪 左京二条四坊七坪 右京二条三坊三坪 左京四条四坊十四坪 西二坊大路 西二坊大路 右京二条三坊訪間西小路 右京二条三坊十一坪 右京二条三坊訪間路 左京五条四坊条間北小路 西二坊大路 左京五条四坊十六坪 右京七条一坊十四坪 左京五条四坊条間北小路 左京五条四坊二坪	HJ1 HJ45 HJ97 HJ174 HJ174 H286-2 HJ353-1 HJ378-7 HJ378-7 HJ443-1 HJ443-2 HJ443-3 HJ459-2 HJ460 HJ486 HJ491 HJ506・623b HJ735	大安寺西一丁目 大安寺西二丁目 六条町 法蓮町 法蓮町 菅原東二丁目 三条大宮町 西大寺国見町一丁目 西大寺国見町一丁目 青野町 菅原町 菅原町 大森町 西大寺国見町二丁目 大森町 七条町 大森町 大森西町	遺物包含層 南側溝 東側溝 遺物包含層 遺物包含層 土坑・溝（2片） 溝 西側溝 西側溝 東側溝 遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層 遺物包含層 土坑 遺物包含層 遺物包含層 北側溝 土坑
3	火炎形瓦製品	西大寺 寺地	SD33	西大寺南町	土坑（18世紀後半）
4	山形施釉陶器	東大寺 西塔西側	TD5	水門町	土坑（15世紀前半）
5	線刻石	右京一条南大路	HJ587	西大寺南町	溝状遺構
6	山形土製品	左京一条三坊九坪	HJ288	法華寺町	推定ウワナベ古墳南外濠
7	鉄製二叉鉾	朱雀大路	HJ103	柏木町	西側溝
8	鐘形鉄製品	左京五条四坊十六坪	HJ557	大森町	井戸枠内
9	獸脚付円盤状土製品	大安寺 池井岳	DA44	大安寺四丁目	杉山古墳周濠埋土
10・11	須恵円筒	左京三条五坊三坪	HJ422	大宮町一丁目	井戸枠
12・13	瓦製円筒	右京二条三坊二坪	HJ327-1	西大寺国見町一丁目	井戸枠
14	台付円板状土製品	左京九条三坊五坪	HJ727	西九条町四丁目	井戸掘方
15	台座形土製品	大安寺 南大門	DA77	大安寺四丁目	土坑（13世紀以降）
16	台座形土製品	右京一条二坊十四坪	HJ207	西大寺栄町	溝状遺構
17	琴柱形木製品	右京二条三坊四坪	HJ273-1	菅原東二丁目	井戸枠内
18	花紋円板形土製品	左京九条三坊五坪	HJ727	西九条町四丁目	井戸掘方
19	ココヤシの実	左京八条二坊五坪	HJ484	杏町	井戸枠内
20	擂鉢状土製品	左京六条三坊十一坪	HJ141	大安寺二丁目	遺物包含層
21	半球状土製品	大安寺 金堂・講堂間 大安寺 南大門	DA133	大安寺二丁目	焼土層
			DA68	大安寺二丁目	土坑
		DA92	大安寺四丁目	北階段覆土	

II. ナニこれ！どのように使ったの？

写真番号	展示品名	出土遺跡名	調査次数	出土地	出土遺構
22	ミニチュア土器 須恵器壺	左京四条二坊七坪	HJ80	四条大路一丁目	整地土層
	ミニチュア土器 須恵器壺	右京一條二坊条間路	HJ207	西大寺栄町	南側溝
	ミニチュア土器 須恵器壺	右京二条三坊六坪	HJ292	青野町	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器壺	右京一條二坊十三坪	HJ625	西大寺南町	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器壺	左京二条四坊十一坪	HJ180	法蓮町	遺物包含層
	ミニチュア土器 須恵器壺	左京二条四坊十一坪	HJ180	法蓮町	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器水瓶	左京五条一坊十六坪	HJ338	柏木町	遺物包含層
	ミニチュア土器 須恵器水瓶	東市跡推定地	T129	杏町	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器壺	東市跡推定地	T129	杏町	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器壺	左京四条四坊十四坪	HJ353-1	三条大宮町	土坑
	ミニチュア土器 須恵器壺	右京二条三坊七坪	HJ378-4	青野町	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器壺	右京三条三坊八坪	HJ196-2	菅原町	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器壺	左京二条四坊二坪	HJ283-1	法蓮町	遺物包含層
	ミニチュア土器 須恵器壺	右京二条三坊二坪	HJ293	菅原東二丁目	柱穴
	ミニチュア土器 須恵器壺	左京四条四坊十四坪	HJ353-1	三条大宮町	遺物包含層
	ミニチュア土器 須恵器壺	左京五条一坊十六坪	HJ370	柏木町	溝
	ミニチュア土器 須恵器壺	右京二条三坊七坪	HJ378-4	青野町	土坑
	ミニチュア土器 須恵器壺蓋	左京四条二坊条間路	HJ80	四条大路一丁目	西側溝
	ミニチュア土器 須恵器壺蓋	右京一条二坊条間西小路	HJ207	西大寺栄町	西側溝
	ミニチュア土器 須恵器壺蓋	東四坊大路	HJ506	大森町	東側溝
	ミニチュア土器 須恵器壺蓋	左京五条四坊条間北小路	HJ506	大森町	北側溝
	ミニチュア土器 須恵器高杯	右京二条三坊条間路	HJ292	青野町	坊間路路面上
	ミニチュア土器 須恵器高杯	右京二条三坊十一坪	HJ443-1	青野町	遺物包含層
	ミニチュア土器 須恵器椀	右京一条二坊条間路	HJ207	西大寺栄町	南側溝
	ミニチュア土器 須恵器平瓶	右京三条四坊六坪	HJ222	宝来三丁目	土坑
	ミニチュア土器 須恵器平瓶	右京二条三坊三坪	HJ310-1	菅原東二丁目	搅乱
	ミニチュア土器 須恵器平瓶	右京二条三坊六坪	HJ310-2	青野町	落ち込み
	ミニチュア土器 須恵器平瓶	右京二条三坊七坪	HJ378-4	青野町	柱穴
	ミニチュア土器 須恵器平瓶	左京五条四坊十六坪	HJ623A	大森町	坪内道路西側溝
	ミニチュア土器 須恵器横瓶	左京二条四坊二坪	HJ157	法蓮町	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器横瓶	右京二条三坊十坪	HJ327-3	青野町一丁目	井戸枠内
	ミニチュア土器 須恵器横瓶	左京四条四坊十二坪	HJ335	三条本町	溝
	ミニチュア土器 須恵器杯	右京二条三坊六坪	HJ257-4	西大寺国見町三丁目	素掘小溝
	ミニチュア土器 須恵器杯	右京二条三坊三坪	HJ310-1	菅原東二丁目	搅乱
	ミニチュア土器 須恵器杯	左京五条五坊十一坪	HJ478	西木辻町	土坑
	ミニチュア土器 須恵器杯	左京二条四坊二坪	HJ157	法蓮町	遺物包含層
	ミニチュア土器 須恵器杯蓋	右京一条二坊四坪	HJ207	西大寺栄町	西側溝
	ミニチュア土器 土師器高杯	右京二条三坊十一坪	HJ327-5	菅原町	土坑
	ミニチュア土器 土師器高杯	左京四条三坊六坪	HJ355	三条桧町	溝
	ミニチュア土器 土師器高杯	左京四条三坊十五坪	HJ522	三条添川町	素掘小溝
	ミニチュア土器 土師器横瓶	左京九条一坊三坪	HJ106	西九条町五丁目	河川
	ミニチュア土器 土師器横瓶	左京二条二坊条間西小路	HJ151	法華寺町	東側溝
	ミニチュア土器 土師器壺	右京二条三坊三坪	HJ273-2	西大寺国見町一丁目	土坑
	ミニチュア土器 黒色土器鉢	西二坊大路	HJ283-1	西大寺国見町一丁目	西側溝

写真番号	展示品名	出土遺跡名	調査次数	出土地	出土遺構
23	ミニチュア丸瓦	左京五条四坊十五坪	HJ575A	大森町	柱抜取穴
	小型軒丸瓦（6299型式A種3点）				
	小型軒平瓦（6765型式A種2点）				
	超小型軒平瓦（6681型式S種2点）				
24	小型丸瓦	右京三条三坊八坪	HJ257-1	菅原東一丁目	井戸（14世紀後半）の枠に転用
	超小型丸瓦				
	超小型平瓦				
	小型鬼瓦				
25	超大型軒平瓦（6716型式G種）	大安寺 南大門	DA77	大安寺四丁目	土坑（11世紀）
	軒平瓦（6716型式C種）	大安寺 禅院食堂并太衆院	DA56	大安寺四丁目	井戸枠内
26	突起がある須恵器皿	右京二条三坊三坪	HJ286-1	西大寺国見町一丁目	柱穴
27	無紋鬼瓦	大安寺 経樓	DA81	大安寺一丁目	土坑
28	ポケットの状の把手がある須恵器壺	右京二条三坊十一坪	HJ378	青野町	溝
	孔がある須恵器壺	左京六条一坊十二坪	HJ57	柏木町	遺物包含層
29	ミニチュア土器 須恵器壺	左京六条二坊十坪	HJ396	大安寺西二丁目	遺物包含層
	ミニチュア土器 須恵器壺	右京二条三坊五坪	HJ495-1	菅原町	遺物包含層
30・31	孔がある須恵器蓋	左京六条二坊十坪	HJ45	大安寺西二丁目	十坪北面を画する溝
32	花紋壇	左京五条一坊十六坪	HJ338	柏木町	井戸枠内
33	「分銅」形土製品	右京二条三坊十五坪	HJ460	青野町	土坑
34	仕切りがある須恵器壺	右京一条二坊十四坪	HJ207	西大寺栄町	井戸枠内
35	金糸（2点）	大安寺 金堂・講堂間	DA133	大安寺二丁目	焼土層
36	須恵質竈	大安寺 禅院食堂并太衆院	DA57	大安寺四丁目	井戸枠内
37・38	須恵質椀	左京四条三坊十五坪	HJ522	三条添川町	土坑

### III. ナニコレ！どんな頃が？

写真番号	展示品名	出土遺跡名	調査次数	出土地	出土遺構
	人形	右京二条三坊二坪	HJ283-1	西大寺国見町一丁目	井戸枠内
39	人形（3点）	左京八条三坊十一坪	T14	東九条町	東堀河
	人形	大安寺 禅院食堂并太衆院	DA57	大安寺四丁目	井戸
40	銅製人形	右京二条三坊訪問路	HJ378-5	青野町	東側溝
	人形（2点）	右京二条三坊六坪	HJ326-1	青野町	井戸枠内
41	人形封入須恵器壺				
42	大型人形	左京五条四坊条間北小路	HJ506	大森町	北側溝
	巣串（8点）	左京五条二坊十四坪	HJ1	大安寺西一丁目	井戸枠内
	巣串	左京三条四坊十坪	HJ10	大宮町六丁目	溝
43	巣串	左京三条四坊一坪	HJ113	芝辻町	井戸枠内
	巣串	右京五条一坊十五坪	HJ127	五条町	井戸枠内
	人面墨書き土器（2点）	左京六条三坊十坪	HJ52	大安寺三丁目	東堀河
	人面墨書き土器	左京五条四坊一坪	HJ667	大森西町	井戸枠内
	人面墨書き土器	左京二条四坊十坪	HJ708	法蓮町	井戸枠内
44	人面墨書き土器（2点）	左京八条三坊十一坪	T14	東九条町	東堀河

写真番号	展示品名	出土遺跡名	調査次数	出土地	出土遺構
45	ミニチュア煮炊具（竈）	東四坊大路	HJ377	三条本町	河川
	ミニチュア煮炊具（竈）	左京四条五坊七坪	HJ429-3	三条本町	河川
	ミニチュア煮炊具（竈）	右京二条三坊十一坪	HJ351-1	菅原町	柱穴
	ミニチュア煮炊具（鍋）	右京三条三坊一坪	HJ173	菅原町	遺物包含層
	ミニチュア煮炊具（鍋）	左京四条五坊七坪	HJ452-1	三条本町	河川
	ミニチュア煮炊具（鍋）	左京三条三坊十一坪	HJ499	大宮町四丁目	東堀河
46	ミニチュア煮炊具（瓶）	左京二条二坊坊間西小路	HJ151	法華寺町	西側溝
	土馬	左京四条五坊七坪	HJ464	三条本町	河川
47	土馬（5点）	左京八条二坊三坪	HJ715	杏町	整地層
48・49	土馬（2点）	左四条五坊十二坪	HJ388	杉ヶ町	溝
50	木偶	右京二条三坊二坪	HJ431-1	西大寺国見町一丁目	井戸枠内
	木製刀形	右京三条三坊三坪	HJ236-1	西大寺国見町三丁目	井戸枠内
	木製刀形（2点）	右京二条三坊二坪	HJ283-1	西大寺国見町一丁目	井戸枠内
51	木製馬形	右京二条三坊二坪	HJ283-1	西大寺国見町一丁目	井戸枠内
	陽物形木製品	右京三条三坊三坪	HJ236-1	西大寺国見町三丁目	井戸枠内
		右京二条三坊二坪	HJ283-1	西大寺国見町一丁目	井戸枠内

#### IV. ナニコレ！どんな意味が？

写真番号	展示品名	出土遺跡名	調査次数	出土地	出土遺構
52	墨書き土器	右京二条三坊六坪	HJ310-3	菅原東二丁目	井戸枠内
53	墨書きがある楓扇	右京二条三坊四坪	HJ273-1	菅原東二丁目	井戸枠内
54	墨書き土器（5点）	左京二条四坊十坪	HJ708	法蓮町	井戸枠内
55	幾何学模様墨書き須恵器蓋	大安寺 池井岳	DA44	大安寺四丁目	杉山古墳周辺埋土
56	花弁模様墨書き須恵器蓋	大安寺 池井岳	DA44	大安寺四丁目	杉山古墳周辺埋土
57	大安寺の刻印瓦（6091型式A種）	大安寺 推定西小字房	DA28	大安寺二丁目	土坑（12世紀後半）
	大安寺の刻印瓦（6717型式A種）	大安寺 池井岳	1995年工事立合	大安寺四丁目	大安寺杉山瓦窯の灰原
58	圓足円面硯脚部	左京五条四坊條間北小路	HJ506	大森町	北側溝
59	管玉が混じる丸瓦	右京一条二坊十三坪	HJ625	西大寺南町	井戸枠内
	モモ種子が混じる平瓦	左京五条二坊一坪	HJ278	大安寺町	溝
	土師器が混じる軒平瓦	元興寺	GG4	北室町	ピット
	瓦器が混じる軒平瓦	西大寺 藥師金堂	試底2004-13	西大寺小坊町	表土



令和2年度秋季特別展  
十二これ！？  
—平城京出土の用途不明品—

令和2年8月26日発行

編集 奈良市埋蔵文化財調査センター  
〒630-8135 奈良市大安寺西二丁目281番地

発行 奈良市教育委員会  
〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1-1